

## 2018 年度学内研究助成 成果報告書

### ① 報告者所属・氏名

文学部英文学科 深瀬有希子

### ② 事業名

「コール・アンド・レスポンスの修辞学——1920 年代黒人メディア文化と黒人読者層の分析」

### ③ 事業の目的

南北戦争後の 19 世紀末に始まり、未曾有の経済的繁栄を遂げた 1920 代において出版された、黒人新聞および黒人雑誌を分析の対象とする。それらのテキストにおいて、アフリカ系アメリカ人作家・芸術家が政治的修辞的戦略をどのように変容させたかを探り、アフリカン・アメリカンの民族誌的自己成型の系譜を提示する。

### ④ 事業実績・研究成果（具体的に）

19 世紀奴隷制時代には白人パトロンや白人文化受容者層の陰に隠れていたアフリカ系アメリカ人文化受容者層（いわゆる黒人民衆）が、世紀転換期を経て徐々に読み書き能力を獲得するにつれて、広くアメリカ文学文化形成にどのような影響力を持ったかを考察した。それは他の言い方をすれば、1920 年代の環大西洋的文芸運動として認知されるハーレム・ルネサンスにおける出版消費活動に、数十年前までは読み書き能力を持つことを禁じられていた黒人民衆が、いかに関与したのかを提示する作業である。

### ⑤ 研究成果の発表・活用（学会発表・論文掲載・地域連携・産学連携など）

①: 2018 年 6 月 30 日に開催されたアメリカ文学会東京支部シンポジウム「ハーレム・ルネサンス再訪」において、深瀬は、企画担当者・コーディネイターの役割、さらには、本シンポジウムが『アメリカ文学会東京支部会報』として纏まる際に、編集作業を担った。

②: 2019 年 7 月 20 日に開催される多民族研究学会（実践女子大学研究成果公開促進費助成による）によって、確認されるだろう。深瀬は、本学会シンポジウムのコーディネイター、司会兼講師、及び、海外講師（ネイアム・チャンドラー博士）招聘のすべてを担当する。

③: アフリカ系アメリカ文学研究として、共著『揺れ動く＜保守＞』（春風社、2018 年）を出版した。

### ⑥ 今後の展開・継続性について

2018 年度は、これら一次資料の渉猟・整理と読解に時間を費やした。2019 年度以降は、科  
研費 C と連動させつつ、同テーマを継続する。